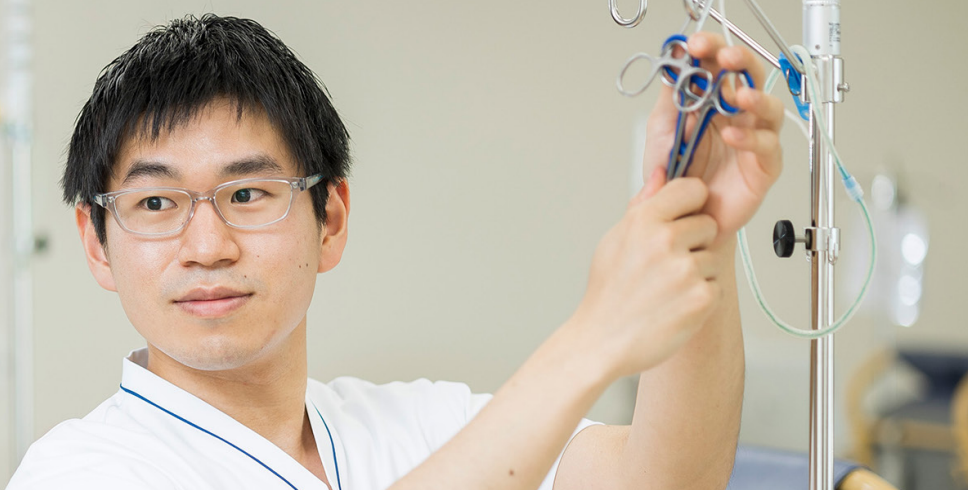


2018年4月入職

おおくぼかずとし
大久保七星



まずは事実や個性を尊重するように

仕事を通して、誰かの人生に深く関わりたい

私は学生の頃、壊れた機械を修理することが趣味でした。きっかけはよく覚えていないのですが「自分の力で直せた」という成功体験が大きかったのでしょう。ゲーム機やスマホなどが壊れたときは、自分で調べたり、ジャンクショップに通ってパーツを集めたりしながら、機械に触れる楽しみを味わっていました。

臨床工学技士を選んだきっかけは、昔から機械いじりが好きだったこと、そして母が看護師だったことが影響しています。母の仕事の話を通して、さまざまな患者さまの生活に寄り添える医療の世界に魅力を感じていました。車やバイクの整備士などの仕事を考えていたこともあるのですが、機械を扱うだけでなく、誰かの人生に深く関わる仕事がしたいと思い、臨床工学技士を志しました。

まずは事実を受け止める



患者さまとのやり取りの中で私が意識しているのは、まずは事実を受け止め、その上でその方と一緒に対策を考えることです。たとえば、食事制限が必要な患者さまがつい食べ過ぎてしまったときも、「危険なのでやめてください」「食べてはいけません」というような表現はしないようにしています。体重が増えると危険なことは患者さまも良く分かった上で、つつい食べ過ぎてしまったことが容易に想像できるからです。私は患者さまが食べることがお

好きなのだという事実をまずは受け止め、食べる量を減らしたり、塩分が少ないメニューを考えたりと、患者さまと一緒にその方にあったやり方を模索しています。

「まずは事実を受け止める」というスタンスは、新人スタッフの育成においても同じです。自分が教えた内容と異なることをしたときも、まずは事実を受け止め、その行動を否定することはしません。「違う」と否定し続けると、やがて間違えることが恐怖になり、身動きが取れなくなるからです。人は正解に辿り着くまでのペースがそれぞれに違うもの。急かすのではなく、対話を通じて正解に導いていくことが私の役割だと考えています。患者さまもスタッフも、治療や仕事に対して伸び伸びと取り組める環境を作り出すこと、自分のやり方を押し付けるのではなく、それぞれの個性を尊重しながら、これからもベストな方法を見つけたいと思っています。



お客様の気持ちに寄り添い
心から信頼していただける
CEを目指します。

大久保 七星